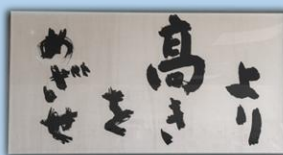


「自己を磨き 他とともに よりよい未来を創造する子」の育成

＜学校教育目標＞

附属浜松小中学校は、令和3年度より小中一貫校になりました。『自己を磨き 他とともに よりよい未来を創造する子』の育成』を共通の教育目標に掲げ、9年間を通して学校生活はもちろん、様々な面にその理念が児童・生徒の姿となって表れてくることをめざしています。

中学校では、『質素・清潔・品位』、『より高きをめざせ！常に崇高であれ！』を合い言葉とし生活しています。この合言葉は上級生から下級生へと代々受け継がれており、本校の風土や土壌を形成する上で、大きな役割を果たしています。



静岡大学教育学部附属浜松中学校

Shizuoka University
Hamamatsu Junior High School
Faculty of Education

令和7年度

学 校 案 内



＜本校の性格＞

学校教育法（第45条）に基づき、小学校における基礎の上に、心身の発達に応じて中等普通教育を施すとともに、次の二つの責務を果たすことを使命としています。

- 教育学部における生徒の教育に関する研究に協力し、教育学部の計画に従い、学生の教育実習の実施にあたること。
- 国の拠点校、地域のモデル校として中学校教育の理論的・実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び、教育研究の成果の交流を行うこと。



静岡大学教育学部附属浜松中学校

【所在地】〒432-8012 静岡県浜松市中央区布橋三丁目2番2号
【TEL】053-456-1331 【FAX】053-457-3587
【E-mail】ohamachu@shizuoka.ac.jp
【URL】<https://fzk.ed.shizuoka.ac.jp/hamachu/>



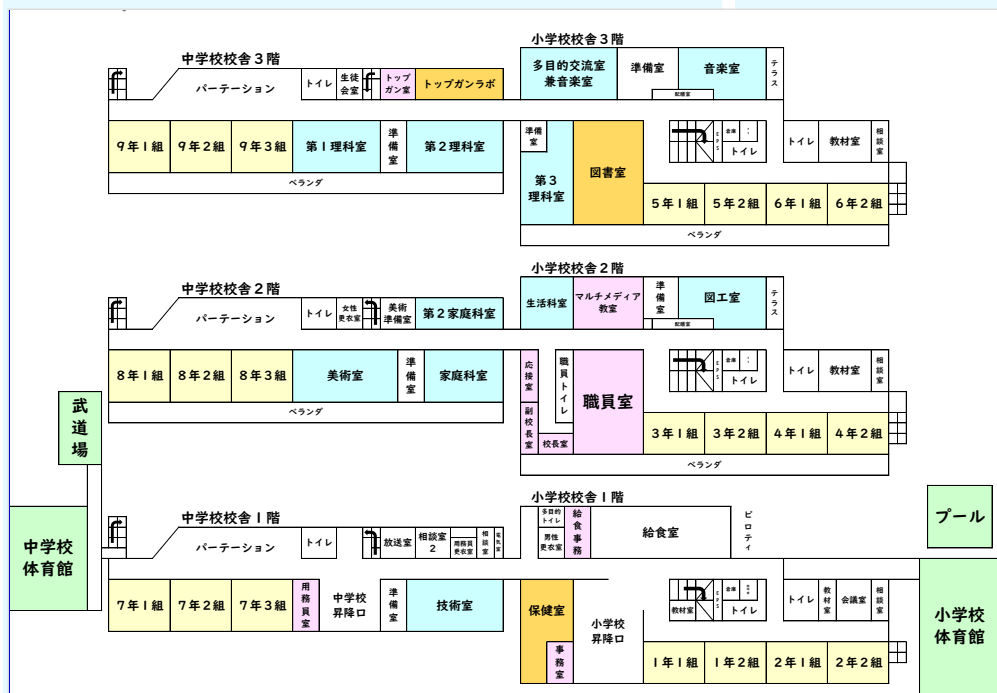
<学校の沿革>

大正 5年 4月	静岡県浜松師範学校に附設開校 静岡県浜松師範学校附属小学校と称し、 4月8日、第一回入学式を行う
昭和 16年 4月	浜松師範学校附属国民学校と改称
昭和 18年 4月	静岡第二師範学校附属国民学校と改称
昭和 22年 4月	静岡第二師範学校附属中学校を設置
昭和 24年 5月	静岡大学静岡第二師範学校附属中学校と改称
昭和 26年 4月	静岡大学教育学部附属浜松中学校と改称
昭和 38年 9月	水泳プール竣工
昭和 41年 2月	体育館竣工
平成 8年 6月	本館新校舎竣工
平成 9年 3月	正門、フェンス、グラウンド工事竣工
平成 16年 4月	国立大学法人静岡大学教育学部附属浜松中学校となる
平成 23年 3月	天神森樹木伐採等周辺整備
平成 24年 4月	子どもの読書活動優秀実践校文部科学大臣表彰
平成 24年 7月	天神森美術館オープン
平成 25年 9月	西館 1階洋式トイレ設置
平成 26年 3月	武道場・バスケットコート竣工
平成 26年 9月	体育館トイレ改修（洋式化）
平成 27年 3月	本校舎北側駐車場整備
平成 27年 8月	体育館LED照明設置
平成 29年 8月	本館各階に冷水器設置
令和 2年 2月	教室エアコン設置
令和 3年 4月	静岡大学教育学部附属浜松小中学校開校
令和 6年 4月	小学校新校舎落成式
令和 6年 4月	特別教室エアコン設置
令和 7年 3月	外構工事完成
令和 7年 4月	教育課程特例校指定



もくせいの集い（合唱）

<校舎配置図>



<小中一貫教育>

学校教育目標の具現化のため、小学校教員と中学校教員の綿密な連携により9年間を見通して系統性・連続性に配慮した指導を行います。



小中一体型校舎



小中ふれあい遊び



小学校くらす祭の補助

<行事予定>

4月	入学式 学びのガイダンス LT 交流会 学校公開日（ふれあい広場） 教育相談週間
5月	教育実習Ⅱ（3週間）、生徒総会 夢講座①
6月	学校公開日 小学生対象学校公開日 期末テスト 小中一貫（ふれあい遊び）
7月	生徒会選挙 養護教育実習（1週間） 三者面談
8月	夏季休業
9月	もくせいの集い（合唱） 教育実習Ⅲ（2週間） 教育相談週間
10月	親子奉仕作業 入学者選考説明会 生徒総会 教育研究発表会 夢講座②
11月	期末テスト 体育大会 教育実習Ⅰ（1週間）
12月	三者面談 冬季休業 小中一貫（くらす祭補助）
1月	入学者選考検査 学年末テスト 学校公開日（7・8年）
2月	8年生体験学習 7年生体験学習
3月	卒業式



LT 交流会



体育大会



教育実習（生徒との対面式）



8年生体験学習（シンガポール・マレーシア）

<教職員一覧>

1	校 長		20	小中一貫(社会)	
2	教 頭		21	国語講師	
3	主幹教諭・教務主任		22	保体講師	
4	9年主任		23	保体講師	
5	9年1組		24	英語講師	
6	9年2組		25	理科講師	
7	9年3組		26	司 書	
8	進路指導		27	カウンセラー	
9	8年主任		28	スクールソーシャルワーカー	
10	8年1組		29	スクールソーシャルワーカー	
11	8年2組		30	トップガン	
12	8年3組		31	トップガン	
13	7年主任		32	事務係専門職員	
14	7年1組		33	事 務 員	
15	7年2組		34	スクールサポートスタッフ	
16	7年3組		35	校 務 員	
17	7 年 付		36	校 務 員	
18	養護教諭		37	校 務 員	
19	養護教諭補助				

<学年学級編制>

学級	男子	女子	計
7年1組	17	19	36
7年2組	17	18	35
7年3組	17	19	36
計	51	56	107
8年1組	18	18	36
8年2組	17	19	36
8年3組	17	19	36
計	52	56	108
9年1組	18	18	36
9年2組	18	17	35
9年3組	18	17	35
計	54	52	106
合計	157	164	321

<生徒居住学区>

中学校区	人数	中学校区	人数	中学校区	人数
蛸塚	52	北星	9	北浜	2
北部	24	三方原	7	雄踏	2
高台	21	積志	7	江西	1
中部	20	天竜	7	江南	1
八幡	19	南陽	6	細江	1
富塚	16	神久呂	5	中郡	1
西部	13	湖東	4	東陽	1
浜名	13	東部	4	北浜東部	1
曳馬	12	開成	3	磐田市	11
佐鳴台	12	与進	3	湖西市	4
入野	12	可美	2	袋井市	2
丸塚	9	浜北北部	2	掛川市	1
南部	9	舞阪	2	合計	321

<日課表>

	A日課		B日課	
朝の会	8:05 - 8:15		8:05 - 8:15	
月水金…読書 火 木…清掃	8:15 - 8:25		8:15 - 8:25	
第1校時	8:35 - 9:25		8:35 - 9:20	
第2校時	9:35 - 10:25		9:30 - 10:15	
第3校時	10:35 - 11:25		10:25 - 11:10	
第4校時	11:35 - 12:25		11:20 - 12:05	
昼食	給食	弁当	給食	弁当
	12:25 - 13:00	12:25 - 12:50	12:05 - 12:40	12:05 - 12:30
昼休み	13:00 - 13:30	12:50 - 13:30	12:40 - 13:00	12:30 - 13:00
第5校時	13:30 - 14:20		13:00 - 13:45	
第6校時	14:30 - 15:20		13:55 - 14:40	
帰りの会	月火木金	水・5時間	月火木金	水・5時間
	15:30 - 16:45	14:30 - 14:45	14:50 - 15:05	13:55 - 14:10

<部活動等> ※ 令和2年度から「任意加入制」を導入

○運動部
陸上競技 サッカー 野球 ソフトテニス(男・女)
バレーボール(女) バスケットボール(男・女)
○文化部
アンサンブル 演劇 美術

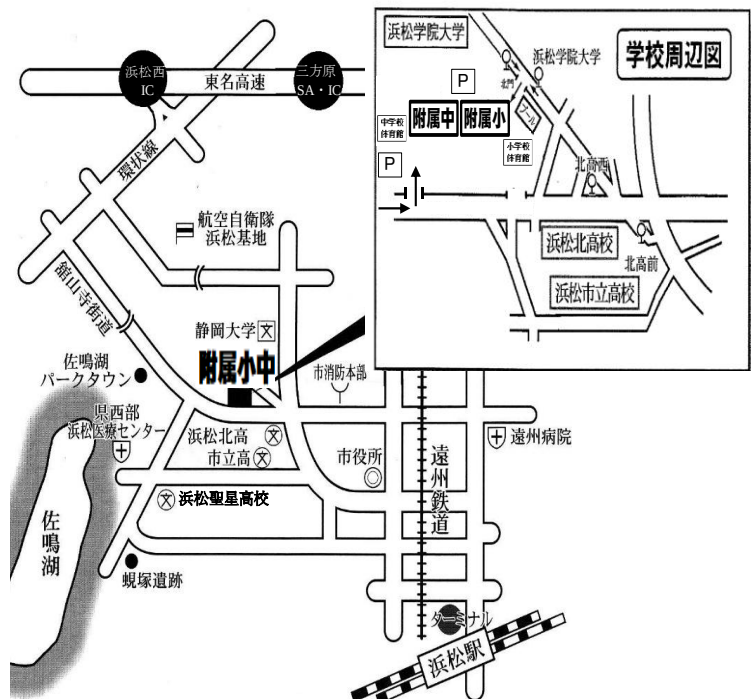
<交通アクセス>

【遠州鉄道バス】

浜松駅北口バスターミナル 1番のりば
「館山寺線」「ひとみヶ丘団地」「大久保線」
【下車】浜松学院大学

【自家用車】

浜松西インターから車で20分
三方原スマートインターから車で20分



<教育研究>



自己を成長させつつよりよい社会の実現のために

- 様々な「ひと・もの・こと」に積極的にかかわろうとする人
- 互いを認め合い、力を合わせて行動していく人
- 社会的意義のある新たな価値を創造していく人



卒業後の継続的な学びと成長



「自己を磨き 他とともに よりよい未来を創造する子」の育成



よりよい未来を創造する子ども

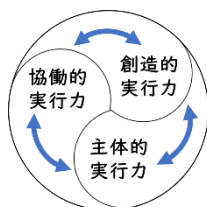
- 自立・自律：自分のよさを知り、自己伸張を図る子ども
- 共生・協同：「ひと・もの・こと」とのかかわり合いを大切に、高め合う子ども
- 創造：新たな社会的価値の創造に向かって自己実現する子ども

研究テーマ 「自己の在り方・生き方」を拡げ・深める子どもの育成

よりよく生きるために何ができるようになるか

めざす子どもの姿に向かう資質・能力を「変革を起こす力」として豊かに育む。

主体的実行力・協働的実行力・創造的実行力の3つの実行力が一体となったものを「変革を起こす力」と捉え、育んでいく。



よりよく生きるために何を学ぶか

道徳教育を主とする「MyLife 領域」と、教科の学びを主とする「文化創造領域」、総合的な学習の時間を主とする「未来創造領域」、特別活動を主とする「学校創造領域」によって、子どもの学びが横断・往還し、学習を進める。



よりよく生きるためにどのように学ぶか

「学びの仲間」によって本質を探究し、「何を成すべきか」を考え、目的を問い直して再構築したり、見いだした意味から仮定した本質を問い直したりする学びを行う。これによって子どもが「考える経験」を積み重ねる。



研究経過については静岡大学学術リポジトリ（右の二次元コード）に掲載しています。

